

令和7年産 大麦『ファイバースノウ』栽培こよみ

令和6年8月
アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

大麦栽培のコツ：**早めの排水対策で単収300kgを確保** **計画的な団地化とブロックローテーションで連作を回避**

栽培管理のポイント	9月	10月	11~12月	積雪期間	3月	4月	5月	6月
		★播種前の排水対策は確実に	★耕起は丁寧に★適正播種量で苗立ち確保	★排水溝は随時手直しする			★赤かび病防除の徹底	

発芽・苗立ち確保のポイント 単収向上には初期生育の確保が重要

- 排水対策** → ①稲刈り後、すぐに額縁排水溝を設置 ②額縁排水溝の深さは30cm以上
- 土壌改良** → ①石灰質資材の施用 ②有機物の施用
- 適正播種** → ①10月上旬中心の播種 ②適正な播種量 ③播種深度は3cm程度 ④畦幅は3m以内
- 播種後の管理** → ①雑草防除対策 ②排水溝の連結点検

排水対策

①水口はしっかり止める ②額縁排水溝は早めに設置する ③排水口は深く掘り下げる

④サブソイラ等による心土破碎で透水性を改善 ⑤播種直後に基幹排水溝を設置 ⑥排水溝は確実に連結する

畦幅は3m以内 排水口は額縁排水溝より深く掘り下げる

ポイント② 土づくり・施肥・播種

●土づくり(pH矯正)・施肥

- 土壌改良資材を施用し、土壌のpH6.0~6.5を確保する
- 深耕により作土深を確保し、根域を拡大させる
- 基準となる基肥量を確実に施用する

★施肥の目安(10a当たり)

施用時期	耕起前	播種時基肥	備考
資材名・施用量	粒状石灰石 ※ 沖積土壌 150~200kg 洪積土壌 発酵けいふん(粒) 沖積土壌 150kg 洪積土壌 100kg	エコ大麦44号 45kg	原則追肥しない

※土壌診断の結果 pHが低い場合は多めに施用する

●播種時期に応じ、適正量を播種する

- ①播種適期は10月上旬
- ②生育量を確保するため10月中旬までには播種を完了する
- ③栽培面積が大きい場合は9月末より乾いた圃場から計画的に播種する

●播種時期と播種量の目安

播種期	目標苗立数(本/m ²)	播種量の目安(kg/10a)	
		ドリル播	表面散布
9月26~30日	140	6.0	6.5
10月上旬 (10月中旬)	150 (200)	6.5 (8.5)	7.0 (9.0)

ポイント③ 雑草防除

●播種後、速やかに除草剤を散布し、肥料成分が雑草に奪われるのを防ぐ(ただし、表面散布では使用できないので注意する)

【一般的な防除】

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用量及び散布液量(10a当たり)	使用方法
ボクサー	一年生雑草	播種後~麦2葉期(雑草発生前~雑草発生初期)	薬量 400~500mL 希釈水量 70~100L	土壌表面散布

【雑草が少ない圃場】

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用量及び散布液量(10a当たり)	使用方法
トレファノサイド乳剤	一年生雑草(ツクサ、カヤツリグサ、キク、アブラナ科を除く)	播種後出芽前(雑草発生前)	薬量 200~300mL 希釈水量 100L	土壌表面散布
トレファノサイド粒剤2.5		播種後出芽前	散布量 4~5kg	

条間の雑草が少ない

【カラスノエンドウが多い圃場】

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用量及び散布液量(10a当たり)	使用方法
リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後~麦3葉期(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)	薬量 60~80mL 希釈水量 100L	土壌表面散布
リベレーターG		播種後~麦2葉期(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)	散布量 4~5kg	

ポイント④ 赤かび病防除

●適期に2回確実に実施!

施用時期	薬剤名	使用量及び散布液量(10a当たり)
1回目 穂揃期(開花始め)	トップジンM粉剤DL	4kg
	トップジンM水和剤	1,000倍 / 150L
	トップジンMゾル	1,500倍 / 60~150L
2回目 1回目散布の7日後	ワークアップ粉剤DL	3kg
	ワークアップフロアブル	2,000倍 / 150L
	(無人航空機の場合)	8倍 / 0.8L
	(無人航空機の場合)	10~16倍 / 0.8L

赤かび病被害粒

ポイント⑥ 緑肥作物による地力増進

●栽培体系と効果

●主な緑肥作物

作物	クロタラリア
生育特性	草長 1.5~2m 生草量 4t/10a 程度
播種期	6月上旬~7月上旬
播種量	5~6kg / 10a
すき込み時期	普通種: 播種後50~70日 フレールモアで切断後すき込み 広葉種: 播種後60~80日
特徴	窒素濃度は高く、土壌中での分解が速いため、肥料としての効果は高い

※麦あとの緑肥栽培はカメムシ等対策により7月上旬までの播種としています。

※安全安心な大麦を生産、販売するために『生産記録簿兼 GAP チェックシート』を記帳・提出しましょう。